

5カ国の学生が制作

あす川崎の映画大学でドキュメンタリー上映



会見した佐藤忠男学長(左端)、ミロスワフさん(左から2番目)と関係者ら

世界5カ国の学生が制作したドキュメンタリー映画「世界の夜明けから夕暮れまで」が10日、日本映画大学(川崎市麻生区)で上映されるのを前に、企画したポーランド人監督らが東京都内で会見した。

同作品は、ドキュメンタリー映画監督を多数輩出するポーランド国立ウッチ映画大学の教員の指導で、モスクワ▽キエフ(ウクライナ)▽ミンスク(ベラ

ルシ)▽北京▽東京の5都市で映画を学ぶ学生たちが自分たちの都市ごとに制作した。それぞれが40分ほどの短編で、各都市の夜明けから夕暮れまでの市民の日常生活を切り取っている。

東京編には日本映画大と日本映画学校、日

大芸術学部(東京都練

馬区)の学生15人が参

加した。撮影は今年8

月の2週間で行われ、

早朝のラジオ体操か

ら、8月15日の靖国神

社、東日本大震災の避

難所の様子、日暮れの

精霊流しなど、夏の14

の風景が映し出され

ている。参加した日本映画大1年の亀山未央さん(22)は「一人一人が日本の日常とはなんだろうと考えながら作った」と語る。

記者会見で、企画した映画監督のミロスワフ・ゲンピンスキさんは「この5本の映画を比較することで、世界を見ることができる」と語り、佐藤忠男・同大学長も「日本人の宗教的情操がそこはかとなく盛り込まれている。(どんな作品になるか)見当もつかずはらはらしたが、良い作品ができたと思う」と話した。

上映会は10日午後1時～8時。5作品全て上映し、スタッフらによる解説もある。会場は同大学新百合ヶ丘キャンパス(麻生区万福寺1)の大教室。入場無料。問い合わせは同大(044・951・2511)へ。

【高橋直純】